



がん患者と家族のサポート

がん化学療法
看護認定看護師
白井 さおり

がん性疼痛
看護認定看護師
山田 真希

市民病院
外科医師
金子 猛 医師
監修

ID 751376216
(ほのか診察室)
問合せ 市民病院
(代表) TEL 22・2171

新都市の死因の第1位は「がん」です。2人に1人はがんと診断され、今や国民病とも言えます。がん治療の基本は、手術・放射線治療・抗がん剤治療を含む「がんの進行に対する治療」と、主にがん性疼痛のマネジメントや精神的サポートを行う「緩和ケア」を同時に進めることです。両者を合わせて治療・ケアすることにより生活の質を維持しながら治療に取り組むことができます。

そのサポートをするため、新都市市民病院には2人のがん分野の認定看護師がいます。認定看護師は特定の看護分野において熟練した看護技術および知識を用いて、患者とその家族により良い看護を提供できるように専門性を発揮しながら、実践・相談・指導する役割を担っています。

■がん化学療法看護認定看護師の役割

薬の進歩により抗がん剤の種類も多様化し、副作用もさまざまです。新しい薬のオプジーボなどには、従来とは異なる副作用があります。治療を完遂・継続させるためには自宅でのセルフケアがとても重要です。患者や家族と一緒に副作用の対策を考え、自分に合ったケア方法を確実に行うことで副作用を最小限に抑え、安心して治療に臨めるようサポートします。

■がん性疼痛看護認定看護師の役割

がんの痛みを抱える方の苦痛を緩和するために、痛みの治療（鎮痛薬の使い方や副作用対策など）やそれに伴う心のつらさなどの相談を受け、医師・看護師・薬剤師などと相談しながら適切な薬剤の使い方を考えます。

がん患者にとって「痛み」は

とても深刻な問題です。がんによる痛みは、不眠や食欲低下、体重減少、疲労感などの身体的な苦痛だけでなく、不安や怒り、悲しみ、恐怖、気力の低下などの精神的な苦痛にもつながります。また、家族や職場など社会的にも影響を及ぼす場合もあります。このように「体のつらさ」と「心のつらさ」があることで自分らしく過ごせないという苦痛が生じてしまいます。

そういった不安を軽減し、痛みと上手に付き合っていけるよう1人ひとりに合った方法を探しながら闘病を支えていけるように支援します。

■私たちは全力でサポートします

新都市市民病院では、がん分野の認定看護師だけでなく、医師、薬剤師、管理栄養士、相談支援員、リハビリ技師などさまざまな職種と協力しながらチームでがん治療をサポートしています。ま

た、市内の開業医や歯科医とも連携を図り、患者さんの闘病を支えています。

がん療養で不安なこと、お困りごとがあれば、かかりつけの医療機関または新都市市民病院へご相談ください。

